巻頭特集

若者パワーで商店街を元気に！

石橋 × 阪大

『石橋商店街』の近くにありながら、かつて地域との交流が少なかったという『大阪大学』の学生たち。両者をつなぎ、相乗効果を狙う学生団体『石橋 × 阪大』を取材した。

経済学部 2 年生
浅田 圭佑さん

外国語学部 4 年生
安田 晴香さん

経済学部 4 年生
竹内 淳平さん

まちの活性化をめざす『大阪大学』の学生たち

阪急「石橋駅」の西口から広がる『石橋商店街』は昔ながらの風情を残しつつ、今も地元の生活を支える活気ある商店街だ。全体は大きなT字型で、サンロード、赤い橋通り、そして阪大下通りの3つの通りから成る。通りの名にもあるように『大阪大学』の豊中キャンパスにほど近く、昔から阪大生の通学路として親しまれてきた。

『石橋 × 阪大』は商店街とともに、地域と大学のつなぎ役として活動する学生団体。12年ほど前、商店街のパン店『タローパン』の店主である堤洋一さんが、商店街を盛り上げるために阪大生と交流を始めたのがきっかけだ。一年を通じて様々なイベントを自ら主催し、商店街の行事では準備や片付けなど運営側の立場で参加。商店街を舞台に多彩な活動に取り組む彼らは、通称『石阪』として地元住民や学生に親しまれている。

阪大下通りには空き店舗を改装したコミュニティスペース『クルル石橋』がある。「ここはみんながやりたいことを実現する場所」と話すのは、『石阪』代表の浅田圭佑さん。過去に小学生対象の無料塾や夏休みの工作教室、個展、七夕企画やハロウィン企画を開催してきた。いわば学生の発想の受け皿だ。池田市から「学生による商店街空き店舗活用事業」として助成を受け、店舗の運営費にあてている。「お客さんも運営する学生も気軽に参加できるように」との狙いもあり、イベントの参加費は基本的に無料だ。

『石阪』メンバーと石橋商店街インタビュー

スエヒロ家
中野 さん

「『石阪』大好きです！机の上のお勉強だけでなく地域との活動も大切だと思います。阪大生は、頭もいいけどハートもいいね」

コーヒーハウス フカワ
普川 さん

「一人暮らしの学生さんも多いから、食べ物分けてあげたり晩御飯食べさせたり。商店街は第二の故郷というか、保護者のような感じかな」

松家本舗
松家 さん

「お店を経営する立場になるとどうしても安定した結果を狙うことになる。学生たちには僕たちにできない、チャレンジングなことをやってほしい！」

カフェ＆クレープ bon＊bon
髙貝 さん

「浅田くんがんばってるよねえ。お祭りへの出店で商売の面白さを知ったみたい。社会に出たら役立つことが色々わかって、いい勉強だと思います」

主な活動を紹介

8月 「第 33 回地蔵祭り　わくわく広場」

『石橋商店街』で夏休みの恒例となっている子ども向けのお祭り。スーパーボールすくいやヨーヨーつり、かき氷などの催しを 10 ～ 100 円で提供した。『タローパン』は射的の会場に様変わり。子どもたちは真剣な表情で目当ての景品を狙った

11月 「おはこ文化祭」

『石阪』が主催する年に一度のイベント。小学生以上なら誰でも参加 OK の「石橋長縄大会」、クレープや座布団などを作る「秋の体験まつり」のほか、能の実演、落語や音楽演奏などステージも登場。子どもから大人まで楽しめる時間となった

通年 『クルル石橋』の活用

普段は商店街の福引会場などにも使われる『クルル石橋』を、『石阪』が企画する様々なイベントに活用。写真は 8 月 8 日から行われた「放課後スペースくくる　夏の実験・工作祭り」の一幕。夏休み中の小学生たちが手作り石けんやソーラーカー作りに挑戦した

メンバーを見守る商店街のあたたかい目

『石阪』の活動に商店街有志の後押しは欠かせない。7月29日の「石橋まつり」に出したかき氷の屋台で一肌脱いだのは、『カフェ＆クレープ bon＊bon』のオーナー、髙貝悦子さん。保健所への申請や衛生上の注意、値段設定など、飲食店経営のプロとしてサポートした。氷の管理を担当したのは『松家本舗』の松家光史さんだ。心強い応援に『石阪』の売り込み、夏の熱気も手伝って売上は上々だった。

また11月26日に『石阪』が主催した「おはこ文化祭」では、『大阪大学』を拠点とする20以上の団体と商店街の面々が『石橋商店街』各所に集結した。ゲームコーナーを切り盛りしたのは、『クルル石橋』をよく利用する小学生たち。祭りの出店で遊ぶことはあっても、運営する機会は珍しいと喜んでいたという。「これだけ活発で、しかも学生によくしてくれる商店街の存在は本当にありがたいです」と、『石阪』メンバーの竹内淳平さんは話す。

▶「おはこ文化祭」ではお店を PR する「石橋ポスタープロジェクト」も開催。クスリと笑える変化球のアイディアで店主の人柄を伝えた。撮影は『藤井写真館』

▲阪大下通りの展示スペース前では多くの人が足を止め、写真を撮る人の姿も

人間関係の中で生まれる取り組みに期待

一方、「商店街も高齢化しているけれど、『石阪』は次々新しい世代が入ってくる。学生とのイベントでは普段やらないことができて、元気をもらっています」と語るのは、『コーヒーハウス フカワ』の普川恵子さん。学生とのコラボが続く商店街は珍しいと、同業者から羨む声もあるそうだ。

課題はメンバーの確保。他の活動と掛け持ちする学生も多く、常に活動できるのは4～5名と少ない。「今中心となっている浅田くんはすごく大変だと思います」と『石阪』メンバーの安田晴香さんは心配をのぞかせる。前述のイベントで地元の人々を巻き込めたのも、ある意味では人手不足の思わぬ副産物だった。

親身になってくれる商店街の人々に、柔軟な発想と労力で応える学生たち。「お金ではなく、人と人とのつながりで成り立つ活動が学生の間にできるのは成長にもつながる」と浅田さんは話す。「自分が教員を目指していることもあり、今は子どもに向けた企画が多いけれど、メンバーによって将来の活動は変化すると思う。来年、再来年はどうなるかな」。もう少しで新入生が現れる4月。『石阪』はさらに商店街の人々を巻き込み、大きなつながりを目指す。

取材協力

石橋 × 阪大
【Twitter】
@ishibashihandai
【Facebook】
ishibashi.handai
イベントの開催情報を更新中

クルル石橋
【住所】池田市石橋 1-13-5

文／刀祢美沙　デザイン／小林亜由　写真／K.Hirohata